

## 夏期観測参加者数が延べ 5000 人を達成しました

2007年7月10日にNPOとして初の夏期観測を実施して以来、7月25日まで13シーズンをかけて5000人に到達

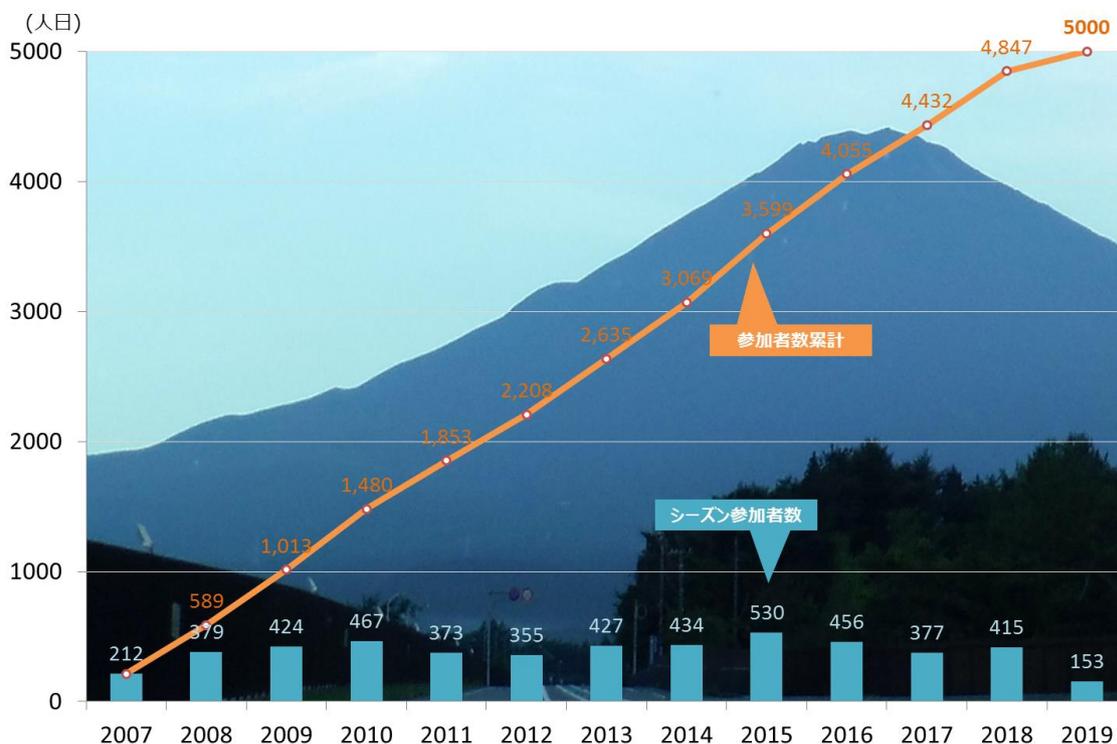
認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会は、気象庁から借り受けた貴重な国有財産である旧富士山測候所において、2007年7月10日に夏期観測を実施して以来、毎年7月、8月の約2ヶ月間観測を続けてきましたが、今年7月25日（木）にその延べ参加人員が5000人を達成しました。5000人目の利用者は、この日、PM2.5 観測機器の立ち上げ・確認などのために富士宮口から登山されてきた埼玉県環境科学国際センターの米持真一さんでした。

2007年に気象庁による「富士山測候所の庁舎の一部貸付」の公募に応じて採択されたこの年は、何もかも初めての経験で慣れない研究者たちが、測候所で非常勤勤務の経験のある登山家を雇用して安全を確保し、手探りで管理運営を行いました。7-8月の間に8課題についての研究が行われ、延べ212人が山頂の測候所を利用しました。

2008年以降は、前年の成功によって多くの利用希望が殺到するようになり、毎年延べ400人から500人程度の参加者を得て継続されてきました。13年目となる今年の夏期観測には、過去最多となる36プロジェクトが参加し、約400人の利用が見込まれています。近年は観測方法も効率化してきたこともあり参加者数としては横ばい傾向にありますが、研究課題の指標となるプロジェクト数は拡大し続けており、その分野も大気化学、放射線、高所医学の研究から富士山噴火に備えた防災関連の研究まで、多岐にわたっています。

なお、山頂班による常駐管理体制の日は本日現在681日となっており、こちらも8月13日には700日に到達する予定です。夏期の一日常平均の利用者数は7.3人となりますが、長期にわたり活動が無事故で実施されてきたことは特筆されると言えます。管理運営面では山頂班と御殿場班による登山管理体制の確立、利用の手引きの整備とその徹底、ネットを利用したオペレーションのシステム化と情報の共有化など、安全第一の取り組みの成果と考えており、これからも継続して改善を図っていく所存です。

### ■ 夏期観測参加者数の推移



\* 2019年度は7月25日までの数値です